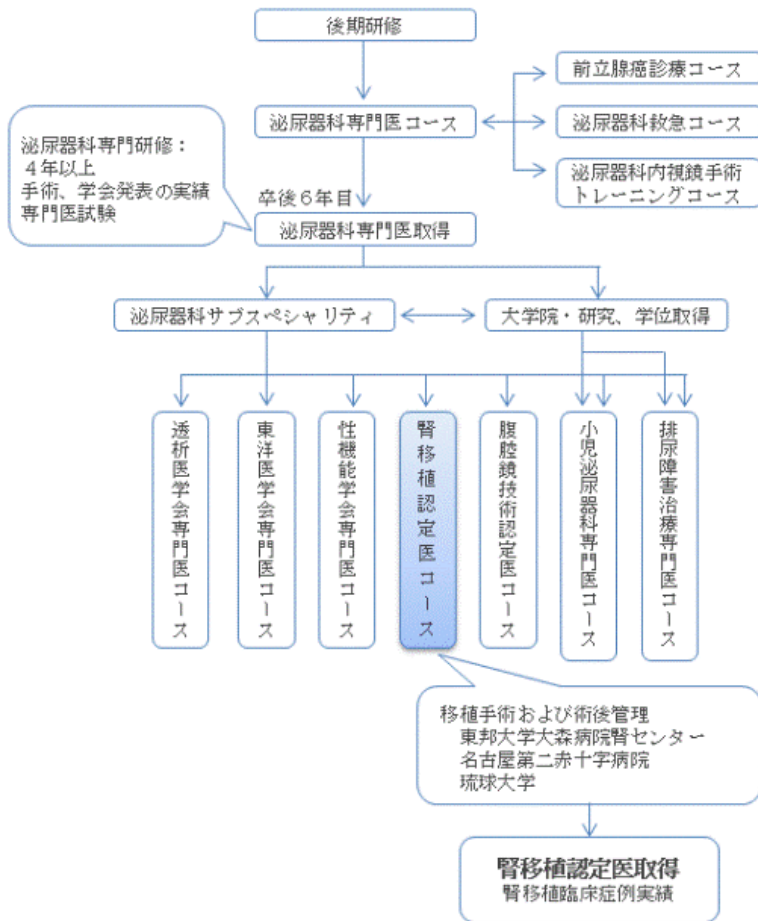


□ 後期研修プログラムについて

■ 腎移植認定医コース

<コースの全体像>

東邦大学医療センター大森病院腎センターと名古屋第二赤十字病院には腎移植手術症例数では国内でも指折りの施設である。また、血液型不適合腎移植、小児腎移植、二次・三次移植など難易度の高い腎移植や免疫抑制剤の血中濃度のモニタリングの開発など腎移植の領域では先駆的な役割も担っている。両施設における研修では腎移植手術手技の取得は言うまでもなく、拒絶反応の予防や拒絶反応発生時の免疫抑制療法についても学ぶ。さらに移植腎の長期生着を得るために、種々の外科的合併症に対する対応および内科的合併症である糖尿病、高血圧、動脈硬化症、脂質異常症、メタボリック症候群への対処など外来フォローアップのきめ細かい管理を学ぶ。



<コースの概要>

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
東邦大学医療センター大森病院	腎センター	腎移植	4名	腎移植手術および移植患者の管理	1名	1年
名古屋第二赤十字病院	移植外科	腎移植	5名	腎移植手術および移植患者の管理	1名	2年
琉球大学医学部附属病院	泌尿器科	腎移植	6名	泌尿器科救急疾患	3名	2年
受入人数					12名	

<コースの実績>

東邦大学医療センター大森病院腎センターは1987年の琉球大学医学部附属病院での第1例目の腎移植手術から10例まで、直接腎移植手術の技術指導を行って頂いた。また、琉球大学医学部附属病院からは3名の医師が東邦大学医療センター大森病院に派遣され、腎移植の研修を受けてきた。現在はその内の1名が臨床腎移植認定医に認定され腎移植を行っている。また、2006年から名古屋第二赤十字病院に医師を派遣し、腎移植・腎不全外科の研修を受けている。

<コースの指導状況>

東邦大学医療センター大森病院腎センターおよび名古屋第二赤十字病院は腎移植外科医および腎臓内科医の専門医師で構成されている。腎移植手術だけでなく腎移植後の内科的な管理そして透析療法を受けている腎不全患者の様々な合併症に対する治療など、腎不全医療の包括的な治療と研修指導を行っている。

<専門医の取得等>

学会等名	日本移植学会、日本臨床腎移植学会
資格名	腎移植認定医
資格要件	日本臨床腎移植学会が定めた腎移植症例の実績があること
学会の連携等の概要	日本移植学会、日本臨床腎移植学会への入会、学会参加をする。また、学会発表を行えるよう支援する。